鷄ノ頭部動脈ニ就テ(發生途上ニ於ケル第一及第二動脈弓ノ消長

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-04
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/37927

作ラレ ビ底 際 ティ ディ ディ 及ボ 平滑 壁 体ヲ密閉セル「クロ 生ズルヲ待チ金具ノ枠組ミヲ固定シ 包 シ ク」「アルコー 3 セ = 逐塊 テ中途多クノ不快事ニ遭遇セリ殊ニ包痊塊ノ大ナル ラ 多シトス)一定度ニ硬變セシ後包痉塊ハ酒精中ニ 3/ 黑染 壁ニ金屬 基準線 ンしノ サズ ハーシェラッ ン」硬變ヲ速カ ナラズ 硬變愈進:螺旋棒ハ容易ニ拔キ取ラレ四六紙 シ包痉塊ハ三本又ハソレ以上ノ小併行管ヲ有 = ヲ酒精中ョ 連 ヲ流シ込ミ材料塊ヲ投入シ適當ノ位置 墨汁(開明墨:墨ノ素等)ヲ注入スル ス 漸ク 冰線標本 續 ŀ 讱 雖 ヲ ル」液乾燥 硬 用ヒシ 芹 求 æ 變 ク」ノ溶解ニョ リ取リ出シソノ併行管内 = 2 (スル ナラシメン U 圓 基準 ル基準線ナリ管壁ニ 1 ホ ガーチ 輪 細小螺旋線 ヲ待ツ壁ヲ紙トセル v 線 シラ其處 = 4 テ現ハ 卫 」蒸滊中ニ安置シ 直角 ガ為メノ工夫トス(創案 ロイディン」ノ硬化遅 リテ直ニ脱離 v ニシ = ハ吾人 截斷 ソノ中ニ エラッ ハ螺旋線 , セ 目 ラ ノ酒精ヲ除去 ハーチ 時ハ ーチ v 的ニ支障ヲ __ ス クしノ カ ラ チ = 置 作 工, アリテ ッ ク Z ヱ 投入 ス後 壁及 薄膜 ラ v R シ U U キ U 管 in ラ 時 ィ 全 イ イ ラ デ ヲ示 傷 胎 王 堡 ノ デ **≥**⁄ シ チ六對ノ動脈弓模型ハ爾來何等 = 1 就テ頭部動脈 九〇二年維納大學教授 テ第十九世紀ヲ經過シ 生時 v 重大ナル事實ヲ指摘シ セラル、憂ヒ又甚ダ少シ第三寫真圖ハ吾ガ經驗 Van Bemmelen, Zimmermann, Boas タル脊椎動物 ス ン 鷄 æ = 於ケル 包座塊内ニ深在スレ 1 發生 ナリロ 教授 頭部 脈 号ノ消 ノ途上ニ於ケル第 第一及第二 Heinrich Rathke 1 動 (圖欠) 消長ヲ詳 ジノ頭部で 會 脈ニ 長 員 タリ、其ハ抑モ何事カトイフニ、 及頸部動脈ノ發生基礎模型、 タ Julius就 一動脈弓ハ全然消滅ス **"** 細ニ研索シ當時迄知ラレ 木 ٧,٧ テ 標本製作 Tandler ハ鼠及人 改訂 村 3 等二 修正ヲ蒙ルコ y 省 ラ = 創 際 3 ŋ 案 シ 三君 /テ訂正 ıν = 也 ラレ = ノーツ V 胎兒 ザリ ナク ヲ損 非 即 次 セ

、原著及實驗

第二十二

第

Ξ

號

七九

第百三十四號

九

又「シヱラック」「アル

3

1

بنر _

液ヲ塗ルベ

シ、マシ

工

ラッ

上述

Ĩ

如クソノ方法ハ簡單

ナナリ

m

モ基準な

線

۱۷

チ

Z

U

1

指

ヲ

屈

スル

=

過

ギ ズ、

.目.

ソ

何

V

=

於

テ

Æ

第

及

第二

第

Ξ

號

設シ ス ズシテ其一部分ハ w タ ŀ ル頭部 イ , フ 7 動脈 ナ クリ 成長ノ後ニ 7 發生基礎模型ハ實ニ重大ナル 之ニョ リテ 至ル迄 Rathke モ、 其他ノ大家 依 伙 ۲ シ 修 テ 存 E ガ 建 ヲ 在 +

蒙リシ 第二動 悉ク背側頸動脈 脈弓ハ全然消滅シ、 ナ y, 如何 ŀ ナレバ Tandler 以前ニ於テハ (Art. carotis dorsalis) 及腹 頸部及頭部ニ於ケル 心側頸動 成育 第 動 及 脈 脈

認 = タンド ・ラア = ノ新提言ハ 無謬ト シ テ直 ニ學會ニ承

(Art. carotis ventralis) ノ枝ナリト

セラレ

タ

レ

パ

ナリ。

然

セ ラ iv 7 能 ザ ý + 然レ **F*** Ŋ ン ۴ ラア ノ弟子 八夕

ナ

得ラル、恰ド凡テノ哺乳動物二於テ頭部動脈 ŀ ラ r 指導ノ下ニ着 R ŀ シ ラ研究 歩ァ進メ胎見ノ ノ發生史ヲ

ン

詳細 造 部 二動脈弓ハ全然消滅セズシテ一部分ハ殘存シ、 ガ 相合 7 一研索シ ヲ證 明 ラ胎生後半期 タル 乜 y 末、 (Tandler: Zur Entwicklungs geschichte 之等 1 頭部動 動物 脈 = 於テ タ jν モ悉ク第一 Art. stapedia 🤊 = - ノ 殘存 及第

V

Æ

聽

小骨ト

同意義ニ密接ナル

關係ニ立ツ

者ナル

ヲ

以テ

脈ノ有 動脈 ヲ顧 ナリ 爬蟲類ニ於テハ肉眼 慮 号 無 シ ノ殘留或ハ ブ ボヲ論ジ ナ セ シ研究ガ鳥類ニ於テ欠乏セル オラザル 哺乳類 的研索ハ可成リ十分ニ為サ 所ヲ以テ見レバ 1 Art. stapedia Tandler 相當 = ŀ V スル動 才 ヲ 提言 知 V 卍

尠シ、 發生學史的研 ノ各目ニ於テ成長動物 w 名稱ヲ導キ來リシ 只比較解剖學的ニ意義多キ研究ハ 究ニ 至リテハ 進藤教授ノ夫レ ノ背側頸動脈 鳥類ニ 於ケル ハ 何レ ナリト Art, columellaris 3 モニ大枝 y モ 其 爬 數 二分 蟲 層

養フ、 局處解剖學的及比較解剖學的 V 甲 ۱در 脳物質ニノミ 後者ハ爬蟲類ノ各目ニ於ラ皆別箇 血液ヲ 搬ビ、 = ۱ 乙 沛 Æ 眼球及類部 U 1 ノ名稱ヲ持 グ = シ テ ヲ 且 テ Ę 何 Æ

進藤氏ハ之ニ 且同氏ハ爬蟲類ニ於ケル Randler - Art. stapedia Art, columeliaris Art. ニ相當スベ columellaris ナル名ヲ與へ シ ハ哺乳類ニ ŀ タル 論 ゼ ナ y, 於

興 進藤 フ n 教授ハ鳥類ニ於テ = = ノ問題ヲ以テセラレタリ、 Æ **=** ノ關 係ヲ决定セ 鷄 Gallus domesticus ŀ 欲シ余

然ラバ 哺乳動物ニ於ケル 鳥類ニ於テ ۱د

頭

動 脈

發生

ノ狀况

略

17 前

述

如

ケ

如 部

何鳥

類發生史ノ文献ヲ探ル

=

僅

Ą **≥**⁄ Kopfarterien

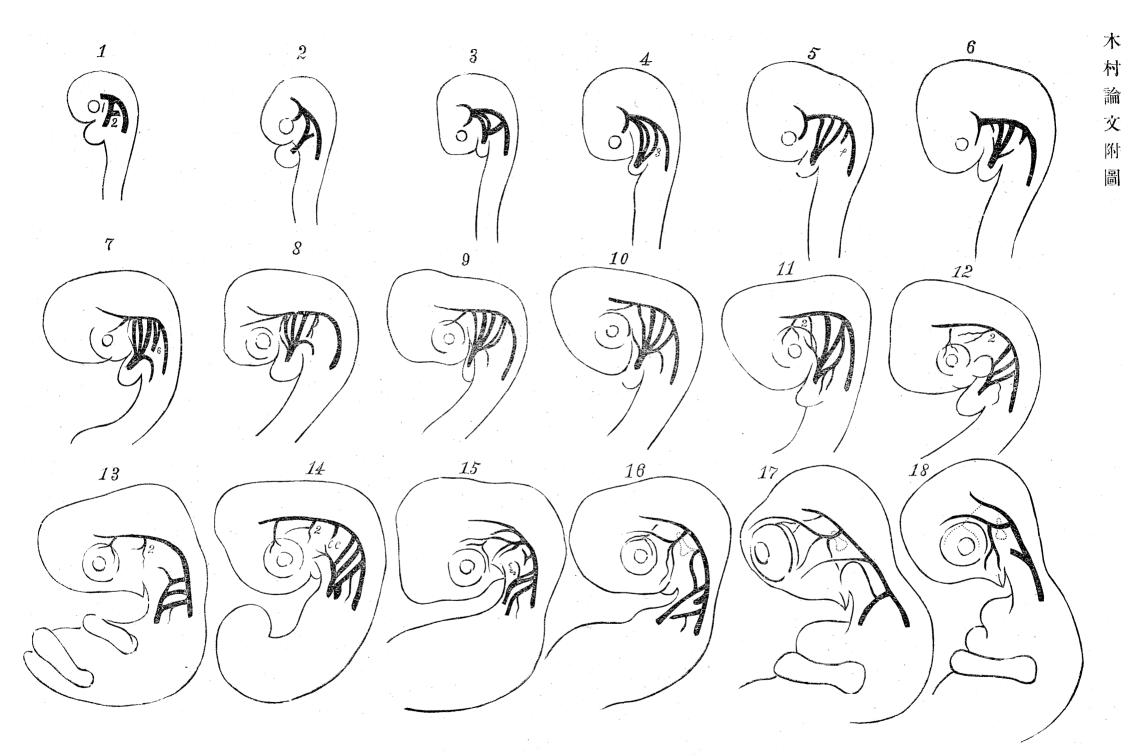
bei

den

Maamalia.

Morphologisches

Jahrbuch, 1902



Schema der Entwickelung der Kopfarterien bei Gallus domesticus,

分 動脈弓 リ出 ニ向 脈弓ノ中間ニ生ズ、 w ラ ヲ養フニ 五動脈弓ノ秘義蓋シコ 中央ニテ斷絶シ、 完成シ第二動脈弓ハ發生ノ途上 標本第一ノ胎兒ハ 記 胎 第三動脈弓迄完成セハ標本第七ニ於テハ第一動脈 , 述 兒 supraorbitalis, 眼球及頸部ニ 第二動脈弓ハ中斷 ; ヲ貫通ス、茲ヲ以テ以後第二動 簡 連續 ハ背側頸動脈 stapedia 一至ル、 標本十六二於ラハ第二 以後第二動脈弓ノ 上了 切片ヲ鏡檢 解 ŀ 呼 標本十四 R.infraorbitalis et 第五、 體長 ÚI. ブ 便トヲ慮リテ模型圖 ŀ 液ラ Ź, 肺動 = 致 近キ部ニ於テ島嶼ヲ形成セ いシテ撃 シ シ、 ノ中ニ存在 ○五四 搬ブ、 ス 脈幹、大動 ズ、標本第八及第九ニ於テ第六 第六動脈ハ ニ於テ外頸動脈ガ第二及第三動 jν 背側部ハ分枝シテ眼球及頸部 第 蓋 ナ シ أنبرأ 二動脈 たたった。 ý 動脈 外頸動脈 得 = = 7 ス 夕 第二十二条 於テ 脈弓 弓 脈幹 号ハ y 爾後 動脈、哺乳類ニ ~ 相合シテ動脈幹 n 벙 シ、 ۱ 成 (ハ第一 腹側部 mandibularis 就 績 ۲۰ 聴桿 Columella-blas-標本第四 ノ殘存部 ۲ 益 テ説 標本十 別ニ心臓 次 17 第 が残留 發達 動 崩 1 Ξ ッ、 動 ヲ Art = 脈 セ 如 號 於ケ 於テ 弓 *ن* 脈 弓 ノ方 シ テ 於 第 = ハ 3 ス ۱ 八二 於テ リ、 桿動脈 問題 ガ精糸 要之、 演 顫毛細胞 弓及第四動脈弓(右)ハ夫々頸動脈弓及大動脈 7 礎 腹 八九八 小 塗二 侧 ン ス 体 第六動脈弓ハ肺動 頸 一第三動 兩氏學說 消滅シテナシロ 胎生 次ノニ ナ ギ ŀ 動 運動 年ア ノ基礎 ン 顫 Ļ ナリテ眼球及顎部 脈 時 毛 ヌ 1 一問題 供給 性 ノ第二 ~ 脈 V ギ 運動 中心 小体 ス 弓 ガ 1 半" 3 域 會 性中 價値 動 此學說 タ 1 ŋ と ヲ 第百三十四號 中心小 脈 脈弓 ッ n 及 離 員 奪 ガ如 ク ٤ 心 レ ۲ V 却 兩 1 ノ ナ 八其背侧宇部 タ 佐 價 動 デ外外 氏 7 体 從 IJ 1 w 中心 脈 ノ學説 値 ŀ ∄ 乜 ッ セ 爾余 頸 テ シ幹 ヲ IJ ツ 1 Ξ 决定 腹 說 小 曲 ク 動 脈 ŀ ヲ樹テ爾來之レ 体 來 兩 . 側 部分へ 稱 ス 3 シ 氏 ナ ダ 頸 ŋ 恰 jv \ 枝 jν ケ残リ之ハ聴 ハ 動 シ 轉 弓トシテ殘 學者爭論 脈 = 相 Æ 1 成育獸 必用 來 H 第三動脈 觀 前 ハ ラ見 心 セ 後 細 ナ w 小 シ ŋ 基 体 ŋ ラ ヲ

ス ナ